

令和元年8月26日



学校だより

ひびき

9月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校



今年も暑かった夏休み！

副校長 齋藤 忠雄

今年は、昨年よりも30日も遅い梅雨明けとなりました。7月は少し涼しく各学年の水泳学習も心配されましたが、夏休み前になんとか進めることができました。ただ、梅雨明けと同時に暑くなり、夏休みの水泳学習では、毎日WBGT（暑さ指数）の数値を気にしながらの活動となりました。そして8月に入るとさらに気温も高くなり連日35度を超えるまさに猛暑日が続くこととなりました。熱中症対策を気にしながらの夏休みでしたが、それでも子どもたちは元気に毎日を過ごしたことと思います。

7月から8月の中旬にかけて、各地域のお祭りに参加させていただきました。夕方、少し辺りが暗くなってきた頃、盆踊りが始まりました。地域の方のリードのもと子どもたちも踊りに参加したり、また、やぐらの上に立ち、ねじり鉢巻きにはっぴを着て、曲に合わせて和太鼓を上手に格好よく打ち込んだりする子どもの姿が見られました。地域の行事にとってもいい表情で参加しているその姿を見て、獅子ヶ谷小の子どもたちが地域に愛着をもっていること、地域の皆様に支えていただいていることを改めて実感しました。

夏休みは、日常とは少し異なる楽しい思い出づくりの機会となりますが、同時に学習の継続、振り返りを大切にするため、宿題があります。さらに、自由研究も取り組むとなかなかたいへんなものです。私にも小学生時代、夏の自由研究についての苦い経験があります。あれは私が4年生の夏休みの最終日。つい毎日の遊びに夢中になってしまい、一番たいへんな自由研究をさぼっていました。「早くやりなさい！」と、母の声もいよいよ厳しくなってきました。製作が好きだった私は、段ボールにモーターとタイヤを付け、ロボット自動車の作成を試みました。しかし、プラモデルとちがい、モーターとタイヤのギアの噛み合わせが何度やってもうまくいきません。「だから言ったじゃない。」とあきれ顔の母。夜8時をまわり、いよいよ追い込まれてきた私は半泣き状態になり、父に助けを求めました。当時、我が家には扇風機しかなく、蒸し暑い夜、扇風機を最強にまわしながら、それでも汗だくになって親子で自由研究に夢中になって取り組んだことを今でも思い出します。

昨年度、夏休み明けに展示された各学年の子ども達の自由研究の作品を見て、私はとても感動したのを覚えています。オリジナリティーや創意工夫が発揮された作品、夏の楽しい思い出がとてもよく伝わってくる作品、製作途中の大変さが伝わってくる作品など、「自由研究は子どもが自分の力でがんばるもの！」はもちろんですが、そこにはきっと家族の愛情、応援、協力、叱咤激励が詰まっているのだろうなと思い、一つひとつの作品を鑑賞させてもらいました。今年も素敵な作品が校内に並ぶのを楽しみにしています。

9月には運動会という大きな行事も控えています。まだまだ厳しい暑さも続くと思われます。校庭や体育館での運動会の練習においては、学校としても水分補給や休憩の確保など、熱中症には十分気を付けて学習活動を進めていきたいと考えています。また、子ども達の健康管理には、ご家庭のご理解・ご協力が不可欠です。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。